

群 教 七	G11 - 03
	令 5. 284集
	特活 - 中

意見を比較・検討していく中で、 合意形成できる学級会の工夫

——ジャムボードの意見共有と合意形成マニュアルの活用を通して——

特別研修員 大栗 史寛

I 研究テーマ設定の理由

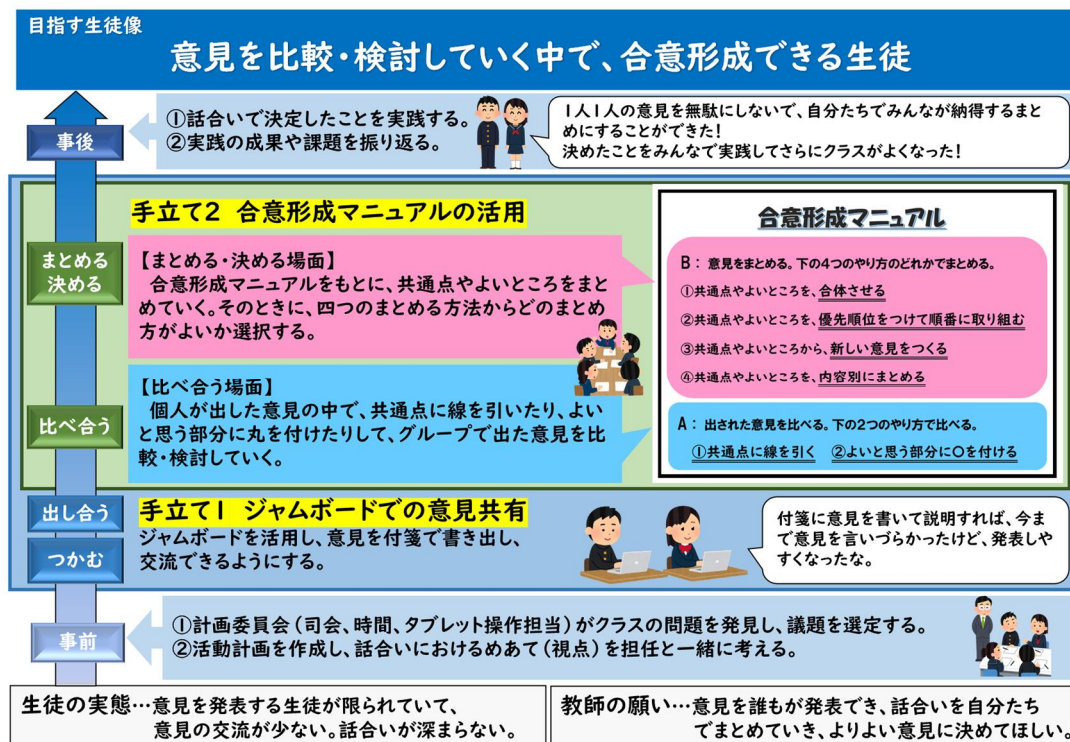
『中学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説特別活動編』における総説では、「児童生徒が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすること」が重要視されており、学び合いの中で自らの考えや理由を伝え、集団として多様な意見をまとめていく能力の必要性が指摘されている。

本学級の生徒は、話し合いの進め方に従って、自分たちで話し合うことができる生徒もいるが、意見を発表する生徒に限られており、一部の生徒の意見のみで合意形成されていってしまい、意見の交流が少なく、話し合いが深まらない傾向にあった。これは、生徒が、話し合いの中での合意形成の方法が分からないことや、意見をもつことができても、発表する機会を得られないまま話し合いが終わってしまうことが原因と考えられる。このような生徒にとっては、自分の意見を発表し、意見の理由や根拠のよさを比べて、よりよい方法や目標に合意形成していく経験を積み重ねていくことが大切であると考えられる。

そこで、ICTの活用により意見を発言しやすいようにし、合意形成ができるようにするためのマニュアルを活用することに重点を置き、意見を比較・検討して自分たちで合意形成できる生徒を育成することを研究テーマとして設定した。また、本研究では、学級活動の内容の「（1）学級や学校における生活づくりへの参画」に限定する。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

生徒が自分たちで意見を比較・検討し、合意形成できる学級会にするために、次の二つの手立てを考えた。

手立て1 グループや全体場面でのジャムボードを活用した意見共有

手立て2 考えのよさや共通点などを比べ、まとめる方法を検討する合意形成マニュアルの活用

手立て1は、ジャムボードで付箋に意見を書き出し、交流できるようにする活動である。付箋にはキーワードで書けるようにし、発表するときに詳しく説明できるようにする。また、なかなか意見を発表しづらい生徒もジャムボードの付箋で意見を書き出すことで発表しやすくなると考える。

手立て2は、ジャムボードで共有した意見を比較・検討し、まとめていくための方法を記載した合意形成マニュアルの活用である。合意形成マニュアルでは、まず、意見の「共通点」や「よさ」に注目して線を引いたり、丸を付けたりすることで比較・整理していく。次に、その共通点やよいところを「合体させる」「優先順位をつけて順番に取り組む」「新しい意見につくりかえる」「内容別にまとめる」の四つの方法のどれかを使ってまとめていく。この活動を、グループと全体それぞれで行うことで、生徒たち一人一人の意見を大切にしながら比較・整理を行い、意見を集約していき、最終的には合意形成できるようになると考える。

このように、二つの手立てを講じることで、生徒は自分の意見を発表しやすくなり、交流が活発化し、出された意見の中からよさや共通点を見付け、議題内容に合ったまとめ方の方法を選択し、合意形成できるようになると考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て1として、ジャムボードで付箋に意見を書き出し、共有できるようにしたことで、以前よりも多くの生徒が自分の意見を発表できるようになった。また、ジャムボードで発表している生徒の意見を、画面を見ながら聞くことができるので、分かりやすく共有できるという効果があった。
- 手立て2として、合意形成マニュアルを提示したことで、グループや全体での意見の比較・検討場面において、出された意見に線を引いたり、丸を付けたりすることで生徒一人一人の意見が無駄にならずに一つにまとまっていく様子が視覚的にも分かるので、生徒は自分たちで意見をまとめていった実感をより強くもてるようになったと考える。
また、グループでの意見の比較・検討場面において、司会係やタブレット操作係を設定したことで、意見共有をスムーズに効率的に行うことができ、表現する活動に注力することができた。
- 手立て2として、まとめ方の方法をいくつか提示したことで、議題内容によってどのまとめ方ならよいか生徒自身が考え選択し、自分たちで合意形成できるようになった。

2 課題

- ジャムボードでの意見共有の場面で、操作に集中させすぎないようにすることが必要である。あくまでも話し合いは言葉で表現することが大切なので、付箋で書き出す言葉はキーワードのみで、発表するときに詳しく説明するようにさせたい。そのときに、そう思った根拠（理由）や話し合いのめあてにそった意見かどうかを意識して説明できると更によい。

実践例

1 議題名 「合唱コンクールに向けての取り組み方を考えよう」 (第1学年・2学期)

2 本議題について

本議題は、本校の学校行事「北杜祭」での合唱コンクールに向けて、合唱をさらにレベルアップさせていくために学級で取り組む行動目標について話し合うものである。中学一年生は合唱コンクールに参加するのは初めてであり、合唱の練習の仕方や歌い方の工夫など分からない部分が多い。その際、出てきた学級の課題を解決するためにどういう意識や行動をしていけばよいか話し合う。そこで、合唱コンクールに向けて学級で取り組む行動を具体的に考えることが、集団で課題を見だし目標を立て、その目標を達成するために、各自が責任を果たし互いに協力し合って集団のレベルの向上を図るきっかけになる。

以上のような考えから、本議題では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	<p>(1) 知識及び技能 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや、他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 思考力、判断力、表現力等 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。</p> <p>(3) 学びに向かう力、人間性等 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。</p>
評価 規 準	<p>(1) よりよい生活を築くための知識・技能 よりよい学校行事になるために、他者と協働して取り組むことの意義や、意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。</p> <p>(2) 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 よりよい学校行事になるために、課題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。</p> <p>(3) 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 よりよい学校行事になるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かして役割を果たし、他者と協働しながら集団活動に取り組もうとしている。</p>
過程	<p style="text-align: center;">主な学習活動</p>
事前の 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と計画委員が連携し、活動計画を作成する。また、話合いのめあての設定を行えるようにする。※計画委員は、休み時間や放課後などに時間を見付けて行う。 ・合唱コンクールのスローガンを学級活動の時間を使い、クラスで決定する。 ・合唱コンクールに向けての事前の振り返りを行う。
本時の 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・計画委員から提案された内容について、めあてに沿った意見を出し、合意形成を図ることができるようにする。 ・グループで出された意見を、全体で比較・検討する場面では、ジャムボードを使って付箋を動かして整理できるようにする。 ・合意形成の場面では、マニュアルを基によりよい意見にまとめていく。
事後の 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・決めた取組が合唱本番に向けての練習で実際に取り組んでいるか確認する。 ・合唱コンクールが終わった後に、振り返りシートで事後の振り返りを行う。

3 本時及び具体化した手立てについて

本議題では、合唱コンクール本番に向けて、合唱を更にレベルアップさせていくために学級で取り組む行動目標について具体的に考えられるようにするために、以下の二つの手立てを取り入れた。

手立て1 グループや全体場面でのジャムボードを活用した意見共有
 合唱をよりよくするために具体的に取り組む工夫をジャムボードのスライドに付箋で書き出させる。また、発表している生徒の意見をジャムボード上で見ながら聞くことで、自分の意見と比べやすくする。

手立て2 考えのよさや共通点などを比べ、まとめる方法を検討する合意形成マニュアルの活用
 合意形成マニュアルのやり方に沿って意見をまとめていく。共有した意見の中で、共通点やよいと思う意見に、線を引いたり丸を付けたりして意見を比較していき、四つのまとめ方の中で、一番よい方法を選択できるようにする。歌い方や音楽表現の工夫など具体的な行動目標になるようにする。

4 授業の実際

(1) 事前の活動

教師と計画委員が休み時間で活動計画を作成した。活動計画では、話し合いのめあて「合唱のスローガン達成に向けて、具体的に取り組む工夫は？」を設定した。司会2名、時間担当1名、タブレット操作2名の分担も決めた。また、合唱コンクールに向けてのスローガン「響かせろ 努力の歌声 つかみとれ 最優秀の美」をクラスで話し合って決定し、合唱コンクールに向けてのクラスの意識を高めた。また、話し合いの前に昨年度の合唱本番の動画を見せることで、話し合いでの意見が具体的に出てくるようにした。

(2) 本時の活動

① つかむ場面

計画委員が今回の学級会の議題と話し合いのめあてを確認し、この議題について話し合う理由を説明した。また、計画委員がジャムボードを使った話し合いの仕方・流れを確認し説明した。

② 出し合う場面

生徒はジャムボードのスライド上に、合唱をよりよくするための意見を出した。事前にお手本となる合唱のイメージをもたせていたので、グループでの意見はどの生徒もすぐにたくさん書き出すことができた(図1)。その後、付箋で書き出した意見をグループ内で発表し、意見を言いやすい雰囲気づくりのために、発表した人への拍手をするように声をかけた。

息を ちゃんと 吸う	つられない ようにする	音程を 気をつ ける	音楽記 号を意 識する
声の大 きさ	出だしを しっかり歌 う	強弱を しっか りする	さびを 盛り上 げる

図1 ジャムボードでの意見

③ 比べ合う場面

合意形成マニュアルを基に意見の比較・検討を行った(6ページ資料)。意見の中で共通点には線を引き、よいと思う部分には丸を付けたことで、生徒がそれぞれの意見の比較をしやすいようになったと考える(図2・図3)。

強弱を つける	指揮者 をよく 見る	目を大 きく開 ける	高聲をち ゃんと 響かす ように歌 う	口を大 きく開 ける
一体 感	鼻息やリ ズムを 覚える		表情を 豊かに	
表現の 工夫	子音をし っかりと 発音す る	音量	音程に 気をつ ける	さびの部 分を盛 り上げ る
強弱	ユニゾ ンの音 域			まと まり

図2 ジャムボードでの意見の比較・検討



図3 班での比較・検討の様子

④ まとめる場面

意見の比較・検討後、四つのまとめ方の中から意見をまとめる方法を選んで、共通点やよいところから意見を合意形成していった。グループでまとめた意見を今度は全体でもう一度比較・検討した（6ページ資料）。

比較・検討時には、グループでの話し合いの場面で、「話し合いのめあてに『響かせろ』という言葉があるから歌声を響かせるために息をたくさん吸うとよい」や、「『最優秀賞』をとるために何が大切か」という意見が出て、話し合いのめあてを意識している姿が見られた。それによって、合唱の歌い方の工夫「フレーズの山を意識して」「音楽記号を意識して」「子音をたてて歌う」などの具体的な視点で意見が出た。

最終的に、今回の話し合いでは、合意形成マニュアルのまとめ方の中で、生徒たちは、④の「内容別にまとめる」の方法でまとめた。今回の議題では、一つの文章にまとめるよりもいくつかの大事なことを曲ごとにまとめた方がよいという判断をしたためである（図4）。



図4 話し合いで合意形成されたこと

このように、議題によって合意形成マニュアルのまとめ方の中から適したまとめ方を選択できるので、合意形成マニュアルは生徒が話し合いで合意形成するための有効な手段であったと考える。

(3) 事後の活動

話し合いで決まったことをその後の合唱練習で意識しながら練習を行った。話し合いで決まったことの中に「歌詞の意味を考えて歌う」ということがあり、さらに合唱のレベルを上げるためにクラスで歌詞を読みながら話し合う姿が見られた。合唱コンクールが終わった後の振り返りでは、話し合いで決まったことをその後の練習でも意識していた様子が見られたので、話し合いを行ったことで合唱コンクールに対しての意識が高まったと考える（図5）。

目標を達成するために、がんばったこと、毎日休みの時間にパートごとに練習して、改善点を言い合ったり、家で曲を流し、音程をかんきに理解した。

図5 生徒の振り返り

5 考察

手立て1として、ジャムボードで付箋に意見を書き出す場面では、付箋で意見を表現することで意見を表現するのに抵抗感が少なくなった生徒が多く、その後の意見を共有する場面でも、書き出した意見を見ながら発表できるので、意見を聞く方も分かりやすく、以前よりも多くの生徒が自信をもって自分の意見を発表できるようになった。

手立て2として、グループや全体での意見の比較・検討場面において、合意形成マニュアルを活用したことで、出された意見に線を引いたり、丸を付けたりしながら、生徒一人一人の意見が無駄にならずに一つにまとまっていくことが視覚的にも分かるので、生徒は自分たちで意見が合意形成されていった実感をより強くもてるようになったと考える。そして、合意形成の方法をいくつか提示したことで、議題内容によってどのまとめ方ならよいか生徒自身が考え選択し、合意形成できるようになった。

しかし、実践を通して合意形成の手立てだけでなく、話し合いを深めるための手立ても必要に感じ、その後の実践では、話し合いのキーワード「なぜなら(理由を言いたいとき)」「めあてにそって言う(話し合いの視点にそって言いたいとき)」も追加して提示することで、より根拠をもって意見が伝えられるようになり、話し合いが深まった。

このような学級会を繰り返し経験していくことで、生徒が自分たちで意見を比較・検討し、合意形成できる力が身に付いていくと考える。

